

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成21年 02月 09日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4677600092
法人名	社会福祉法人 幸伸会
事業所名	グループホーム 青山荘
所在地	肝属郡錦江町城元3724-1 (電話) 0994-22-3388
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成21年1月22日

【情報提供票より】(20年 12月 20日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 3月 20日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 8 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

(4)利用者の概要(12月 20日現在)

利用者人数	9名	男性 1名	女性 8名
要介護1	2名	要介護2	2名
要介護3	4名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	0名
年齢	平均 87.7歳	最低 82歳	最高 98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	大根占医院、岩城歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

大隅半島の南部に位置し、温暖な気候と人情味あふれ、自然環境に恵まれている。ホーム内は天井が高く広々としたダイニングはこころ和ませ、入居者だけでなく、来訪者も自然と和やかな雰囲気に包み込まれてしまう。また、隣接する高齢者施設が入居者・家族の安心感を生みだし、安心して毎日を過ごしている。理念である「安心」「家庭的な雰囲気」がスタッフ全員で共有され、日々のケアの実践に結びつき、管理者・スタッフも家族のように接し支援の向上に結び付けている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の改善課題への取り組みも計画的に行っており、課題については概ね改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はすべての項目について研修会をとおして全職員が学びながら検討し、前回と照らし合わせながら作成し、全員で確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の民生委員や地域包括支援センター職員、家族代表が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立っている。ホームのありのままを感じてもらい有意義な会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明示するとともに、利用者の暮らしぶりや金銭管理は面会時に報告され、職員の異動時にはそのつど挨拶を行っている。遠方に家族がいる場合は電話連絡など定期的に個々に合わせた報告がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会の催事に積極的に参加しており、近隣の保育園等との交流を図っている。隣接する特養と連携した行事を行い地域との交流に努めている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの存在、生活のリズムを大切に、入居者が安心して生活できる家づくりを目指して地域と密着したホーム作りを理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時に管理者より理念について詳しく研修を受け、理念に基づき利用者への支援を実践し、随時職員会議で検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域自治会の催事に積極的に参加しており、近隣の保育園等との交流を図っている。隣接する特養と連携した行事を行い地域との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者をはじめ職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解し、全員で取り組んでいる。前回の改善課題への取り組みも計画的に行っており、課題については概ね改善されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員等の地域の代表や地域包括支援センター職員、家族が出席しており、それぞれの立場からの意見をもらい、運営に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1回は必ず担当部署や地域包括支援センターへの訪問・相談を通して、問題解決に向けて協働して取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや金銭管理は面会時に報告され、職員の異動時にはそのつど挨拶を行っている。遠方に家族がいる場合は電話連絡など定期的に個々に合わせた報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から職員に対して苦情を訴えやすい雰囲気作りに努めており、家族との会話の中から要望をくみ取るようにしている。出された苦情・要望は、内容の詳細をノートに記載して職員で改善にむけて話し合い、第三者委員会に図り運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理運営者は、馴染みの関係の重要性を理解しており、職員の交代がある場合は利用者に説明し混乱を防いでいる。また、引継ぎを十分にいきスムーズに移行し、利用者へのダメージを防いでいる。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会が行われ、経験年数に応じた職員向けの研修も取り入れている。職員会議や申し送りの中で、研修報告を行うとともに職員の質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協議会に加入し、職員が交代で交流会へ参加している。その機会を利用して、他のホームの職員と交流する機会が確保でき、町内のホームと個別の交流も計画されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前にできるだけホームの見学をしてもらい、見学に来れない方にはスタッフが出向いて顔馴染みの関係を作るような取り組みをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考えをスタッフ全体が共有し色々な場面で利用者に助言をもらいながら、職員と調理準備や花壇の整備、プランターへの花植え、洗濯物たたみを行う中で、共に過ごす関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの話を傾聴し、日々のかかわりの中で本人のつぶやきを拾い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、家族への報告の中で家族と話し合い、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に職員や家族と検討し、利用者主体の介護計画を作成している。職員の気づき、利用者・家族の意見の確認は介護計画作成時だけでなく日常的に行うようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族の意見・要望を取り入れ、状態の変化が生じた場合、そのつど見直しを行っている。毎月の会議で介護計画の見直しの必要性を全職員で検討し、評価は月に一度行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や外泊支援、個別買い物支援を行っており、家族宿泊時は食事を提供している。併設している特養やデイサービスと協力し、専門的な分野を地域に提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大事にしており、定期的な受診、通院介助の対応がなされている。利用者及び家族の希望を大切にし、その上で協力医療機関の支援をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する指針をサービス利用開始時に家族に説明し同意をもらっている。また、家族・職員で話し合う場を作り、勉強会を行い情報を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のケアの中で利用者への言葉遣いや職員間の会話に配慮するように心がけられ、さらに申し送り時の確認や研修を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、利用者一人ひとりのペースや希望を取り入れ、その日の体調や気分に合わせて支援ができるよう努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを利用者と相談し、買い物や調理・片付けなど能力に応じてしてもらい、職員も同じ食事を同じテーブルでとることで和やかな雰囲気の中食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望に応じて入浴支援を行っている。入浴を拒否する場合は、無理強いせずに変えるなど、個別に対応している。一人ひとりの時間をゆつくりととり入浴の楽しみを感じてもらえるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は、季節を感じるための家事や趣味(漬物、お菓子づくり)を楽しんだり、お手伝いをする事でそれぞれの役割を見出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回のドライブや本人の気分または天候に応じて食事の買い物を行っている。天気のよい日は散歩など日常的に屋外に出るほか、花をプランターに植えたり、法人内行事や地域行事等への参加を支援している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っている。職員は、利用者の状態を把握し、利用者一人ひとりのサインを見逃さず、さりげなく一緒に散歩に出るなどの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を含め、定期的な訓練を行っており、消防関係者や隣接する特養の協力を得ているが、災害時に必要とされる備蓄の管理がなされていない。	○	火災や地震、水害等の発生に備えた食料や飲料水等の備蓄を準備していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日1400～1600キロカロリーの食事提供と水分1500ccを目安にしており、法人内の管理栄養士からアドバイスをもらっている。嚥下に支障のある利用者には、ソフト食やとろみをつける等の工夫を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく家庭的で、生活感や季節感が感じられる空間となっている。利用者には、和室やソファーなど思い思いの場所でつるげる配慮がなされ、利用者や職員が使いやすいように手作りの家具や工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や、花・鉢・カレンダー・時計・手紙などを配置し、その人らしく過ごせるよう配慮している。		